私立金沢盲唖院の松村精一郎校長が、京都府盲唖院を訪問した記録

橘　勇一
（富山聾史研究グループ）

本稿は、松村精一郎校長本人が京都府盲唖学院を訪問した経過を調査した。

はじめに

私たちは、松村精一郎校長の史跡を中心に10年以上研究を続けてきました。その中で、彼が楽善会（現筑波大学付属視覚特別支援学校）で色々学んでから、京都府盲唖院を訪問した事実がわかりました。しかしその内容について、史料不足により定説がないため、京都府立盲学校まで行き調べました。調査の間は、京都市学校歴史博物館の竹村佳子さんと京都府立盲学校資料室担当の岸博実先生２人から協力を頂き非常に感謝をしています。

そして消息文章（下図）を送られた以前、京都府盲唖院を訪問して古河太四郎院長と相談した経過がどうなのかを知るため、調査を進めています。

私立金沢盲唖院の消息文章
南砺市図書館

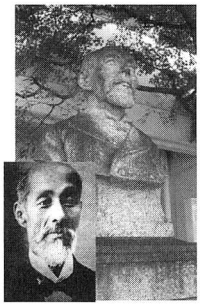
【人物参考】

松村 精一郎【まつむら せいいちろう】

1849～1891。
ろう教育者、地理学者、漢学者。
富山県西砺波郡福光町（現、南砺市）生まれ。６歳の時、大病にかかり、聾・唖・跛の３重の障害者となったが苦学を続けて学識を高めた。イギリスの地理学書を日本語に翻訳し、小学校の教科書に掲載。また、日本で４番目（明治13年）となる「盲唖院」を石川県金沢市に創設した。当時、日本初のろうあ者の校長が誕生した。

古河 太四郎【ふるかわ たしろう】

1845～1907。
明治期の障害児教育者。
京都生まれ。明治維新前は兄の塾家で教え、志士として活動する。京都で郷学（のちの小学校）教員になる。１８７３年（明治６）頃からろうあ教育に携わりのちに「手話」を基礎とした教育法を考案する。明治１１年日本最初の盲唖院を設立、翌年府立となり監事、明治１５年に院長に就任。１７８９年同校が市立となる直前に退職。１９００年に新設の私立大阪盲唖院院長となり障害者の教育に尽力した。



古河太四郎院長　　松村精一郎校長

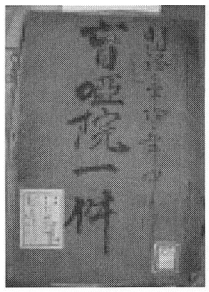
初期京都盲唖院と石川県

中野善達・加藤康昭『わが国特殊教育の成立』（東峰書房版）ｐ３７９より

つぎに、京都・大阪・東京以外の地における盲唖学校設立の動きを探ってみよう。明治十三年三月の『郵便報知新聞』はつぎのように報じている。

『松村精一郎は東京の楽善会と交渉があり、他方具体的な学校の計画については京都盲唖院の影響を受けている。十三年四月石川県学務課から京都府学務課あて盲唖院規則の送付を依頼しており、また同六月松村は石川県師範学校教諭梅田九蔵とともに京都盲唖院を視察、約二か月間盲唖教授の方法を伝習し、同八月には石川県士族米林五七が盲唖院設立につき入費金額打合せのため同院を訪れたという記録もある。

帰県ののち松村は、県当局および東西両本願寺・民間有志家の協力を得て、金沢長町に私立の金沢盲唖院を設立した。しかし、「当時民心尚姑息にして、入学するも僅々四五名に過ぎず」維持困難のため、十五年四月北陸教育社に譲渡され、その後いくばくもなく同社も解散したので盲唖院も廃校に帰したと書かれています。地元の南砺市(旧福光町)でも同じ内容が記されてありました。



京都府立盲学校資料室

『明治　自十一年至十三年　盲唖院一件』

当県ニ於テ盲唖院設立相企候者有之ニ付貴府同院規則御送付之義及御依頼置候

処右規則ハ現今御改正中ニ付成功之上御回付之趣ヲ以テ先ツ課業表ノミ御送付相

成正ニ領掌致シ候尚規則モ御整頓之上ハ御回致之様致度此段御挨拶旁再ヒ及御依

頼候也

石川県

明治十三年四月五日　　学務課

京都府学務課御中

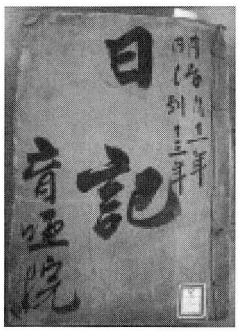
(上記により現在語訳)

『明治　自十一年至十三年　盲唖院一件』（明治11年～13年の間にあった盲唖院での出来事について）

私達の石川県で盲唖院を作ろうと計画している人物がいるので、そちらの京都の盲唖院の校則などの規則を石川県に送って欲しいとお願いしました。しかし、京都の盲唖院の規則は現在作り直しをしているところのようなので、完成したら石川県までお送り下さるとのこと。まず課業表（カリキュラム表）だけをお送り下さいまして、確かに受け取りました。規則も、完成したらお送り下さいますように。この件、ご挨拶とあわせて再びお願いします。

石川県学務課より

明治13年4月5日 京都都学務課御中



京都府立盲学校資料室

『明治 自十一年到十三年 日記　盲唖院』
より

明治十三年六月十二日

一、石川県人之添書付該県師範学校教諭梅田九栄殿出院　生徒教授方為伝習向弐ヶ月間出頭約束之事

同十七日

一、石川県松村精一郎出頭並梅田九栄同所之事

八月九日

一、石川県士族羽咋郡書記米林五七該県盲唖院設立ニ付入費金印額為打合本院ニ来ル其節
古川氏留聞不逮不談帰国
追而上京之旨申居候事
右ハ宿直員高橋より承伝ス

(上記により現在語訳)

『明治　自十一年到十三年　日記　盲唖院』(明治11年～13年の盲唖院日記)

明治13年6月12日

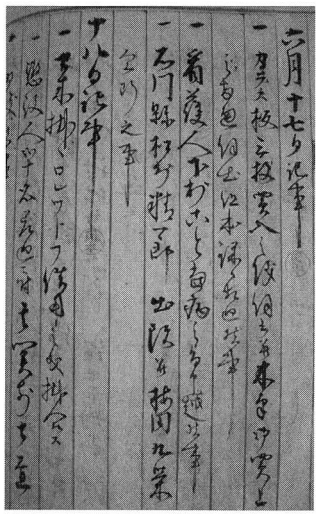
一、石川県の人との添書き付きで。石川県の師範学校の教諭である梅田九栄殿が、生徒への授業方法を習うため、これから2ヶ月間やってくるということだ。

6月17日

一、石川県松村精一郎氏が九栄氏と同じようにやってくる。

8月9日

一、石川県の士族で羽咋郡の書記の米林五七氏が、石川県の盲唖院の設立に関して、その費用についての打合せのために、京都の盲唖院に来た。その時古河太四郎氏とは話せず帰った。後ほど上京すると話していたということは宿直の高橋氏より伝え聞いたことである。



京都府立盲学校資料室

別に京都府盲唖院への金名簿表を見てもらった時、石川県羽咋郡萩谷村の数人から寄付の形で記述がありました。何か関係があるのか関心が沸きました。しかし、私的な問題が絡むため、調査が出来るか相談をしたいと思います。

以上、京都で調べた範囲となりましたが、まだ物足りない面が多くあり、京都府立盲学校資料室の岸博実先生と共に再調査し、判明に向けて追求していきたいと思います。